

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL.110 (年4回発行)

- 発行日 令和6年1月1日
- 発行 三春まちづくり協会
- 編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100-1(旧若駒寮)
TEL/FAX(62)3988

新年のご挨拶



協会 会長 相川 長義 則

新年あけましておめでと
うございます。

町民の皆様には、令和6
年の新年を健やかにお迎え
のことと心からお慶び申し
上げます。

昨年中は、三春まちづく
り協会に、あたたかいご支
援とご協力を賜り深く感謝
申し上げます。

新型コロナウイルス感染症
が5類に引き下げられま
したが、感染症の影響によ
り、地域でのコミュニケーション
が大変少なくなっています。

「人と人を繋ぐ」は「あ
いさつ」から始まるのではな
いでしょうか。マスクもと
れ笑顔が見えるあいさつがコ
ミュニケーションの始まりと
思っております。

学校では「おはようござ
います」「こんにちは」など
あいさつ運動を推進していま
すが、地域の皆様はどれだ
け「あいさつ」をしています
か、職場や見知っている特定
の人だけではないでしょうか。

コロナ禍前のある新聞の
社説に掲載された一部を抜
粋して紹介します。

(ある街で小学生が「こん
にちは」とあいさつしたとこ
ろ「うるさい」と怒鳴られ改
められるというけしからん事件
が起きた。それ以来、小学生
や町民がまちで、あいさつす
る姿はほとんど見ることが出
来なくなり数カ月が過ぎた。

ある日「あいさつする子
ども」に再び巡り会えた。
うれしい驚きであった。う
れしくなつて学校に連絡し
た。最近、何か指導をした
のですかと。答えは特段の
指導はしていませんでした
が、子どものあいさつは学校
としてもうれしいことだと
思っています。やがて、こ
んな話が聞こえてきた。

最初に挨拶を始めたのは
小学生の子を持つ母親だっ
た。この地区にマイホームを
建て、家族で引っ越してき
た。もともと明るい性格だっ
たのに加えて、引っ越してき
たその地域に一日も早くどけ
こみ、なじみたいたいと思っ
た。家の前を通る人や道で出
会う人に、だれかれとなく「あ
いさつ」して、にこにこ話
しかけた。こんにちは、いい
お天気ですね、今度こちらへ

引っ越して来たんです、よろ
しくお願ひします。始まり
は「あいさつする母親」だった。
そして、あいさつは母から
子へ受け継がれた。家から
学校への行き帰り、又道で
会う人へ。おはようございま
す、こんにちは。すると近
所のほかの子たちの間にも
「あいさつの輪」が少しずつ
だが確実に広がっていった。

「あいさつは地域を明るく
する大きな力となります。
町を訪れた旅行者に「こん
にちは」の一言が、温かい「お
もてなし」になるのではな
いでしょうか。
子供たちに負けずに、笑
顔で「おはようございます」
「こんにちは」「今晩は(御
晩方です)」「お疲れ様です」
「ひと声かけてみませんか」
笑顔あふれる、「あいさつ」
が飛び交う、日本一の町を目
指しましょう。

新年の挨拶にあたり、わ
が街が、相手を思いやる優し
い町民であることを、皆様と
一緒に更に進めてまいりたい
と思っておりますので、ご支援とご
協力をお願い申し上げます。
結びに、新年が皆様にと
りまして明るく希望に満ち
た素晴らしい年となります
ようお祈り申し上げて新年

のご挨拶といたします。
年頭の辞



三春町 会長 三本 浩之 坂

新年明けましておめでと
うございます。

町民の皆様におかれまし
ては令和6年の新春を晴れ
晴れとした気持ちでお迎え
のことと心からお慶び申し
上げます。

昨年中は、町政全般にお
たり、あたたかいご支援と
ご協力を賜り、厚く御礼申
上げます。

三春まちづくり協会にお
かれましては、部会活動を
はじめとした各種事業につ
いて創意工夫しながら取り
組んでいただき、三春町の
活性化のため日々ご尽力い
ただいていることに対して改
めて御礼申し上げます。

また、一人ひとりの住民が
豊かな生活を営めるような
地域づくりを目指した「地
域での支えあい」においては
高齢者の溜まり場(サロン)
が多く開設され積極的な活
動が行われていることに対
し、重ねて御礼申し上げます。

今後、町民の皆様、議
会、町が一体となりオール三
春で町づくりを進めて参り
たいと思っておりますので、な
お一層のご支援とご協力を
お願い申し上げます。
結びに本年が町民の皆様
と三春町にとりまして希望に
満ちた幸多い年となります
ように御祈念申し上げます。
年頭の挨拶といたします。

視察研修旅行報告

副協会長

小池 清美

今年度は、一八名の皆
さんと十月十日(火)に那須
塩原市方面を視察研修し
てきました。

最初に見学した那須野
が原博物館は、「那須野
が原の開拓と自然・文化
のいとなみ」をテーマに
平成一六年に開館した施
設です。

この地域は、不毛の地
から開墾と治水によつて、
わずかに百年で発展してき
たそうです。

続いて見学した塩原も
の語り館は、千二百年の
塩原温泉の歴史の「今」
と「昔」を繋ぐ資料展示
を始め、売店、レストラン
からなる複合施設です。

明治・大正時代を中心に、塩原温泉には尾崎紅葉、夏目漱石、与謝野晶子夫妻、国木田独歩ら文人墨客が足を運んでおり、そんな彼らの足取りやエピソードが展示してありました。

午後最初に見学した塩原温泉湯つ歩の里は、全長六十メートルの日本最大級の円形型足湯です。足湯に浸かり皆さんと語り合いながら、心身ともにリラクセスすることができました。

その後、塩原湖にかけられた全長三百二十メートルのもみじ谷大吊橋を渡り、次の塩原ダムに着きました。

このダムは、堤高六十メートル、総貯水量八百七十六万立方メートルのダムです。管理室と堤体下部の発電設備を見学しました。

三春ダムより小さく古いダムでしたが、ダムを利用した発電機で県民への電力提供やダム管理費の削減を図っていることに驚きました。

今回参加した皆さんとは、親交を深めながら和

やかなうちに研修を終えることができました。皆様ありがとうございました。

三春秋まつり

街並部会
宗像 久文

「へえ〜」知らなかった。何と呼びますか？

今年の『三春秋まつり』で催した『まちづくり協会』のブースを訪れた方たちから上がった声です。

今年の『三春秋まつり』は、昨年同様にまほら周辺で開催されました。

街並部会では、石柱パネルの展示、石柱拓本ラリー、すごろくゲーム(石柱の刻字(地名など)を読むゲーム)を実施しました。

来場者が石柱や拓本ラリーに興味を持っていただきたいとの思いで発案したもので、サイコロを転がし、出た目のシートに書かれた番号の名前の地名を読んでもらうゲームです。

子供たちや親子さん、『三春ウオーク』に参加された多くの方々に参加していただきました。

自分で展示パネルから地名の呼び方を見つけて行く子や、そつと子供に耳打ちし教える親など、とても微笑ましく思いました。

私自身、毎日暮らしている三春町の街並みの各所にある地名の呼び名が、私が読んでいた呼び名でなかったことは新しい発見でした。なるほど、『地名』には、そんな背景があったのかと改めてその『地名』に特別な想いを抱くようになりました。当時の人たちが行き来する姿や暮らしが目に浮かぶようになりました。子供さんたちに三春の街並みの名前の呼び方、由来を伝えてみませんか。次回の開催をお楽しみに！

さて、『小浜海道』の行く先はどこでしょう？



教え子の不登校児が文部官僚になった

三春舞鶴会 管野 吉雄

令和5年4月、不登校児であった藤井健人君が文部官僚(いわゆるキャリア組)になった。

藤井君は、小学校5年から中学校3年まで、完全不登校児であった。本人の話によれば、家族が次々と病気になり、生活のリズムが崩れ学校に行くことができなくなったとのこと。医師からは、「小児性うつ」と診断されたようだ。

高校受験を考えた時、彼の通知表はオール1で進学できるどころは見つからなかった。当時、私は埼玉県立戸田翔陽高校の校長をしていた。この学校は、午前部、午後部、夜間部の三部制で学校全体が定時制の学校である。午前部、午後部は、倍率が1倍以上あったので、誰でも入学ができるわけではない。そこで彼は、倍率の低い夜間部を受験し入学してきたのである。

高校入学後は、皆勤賞であった。彼は言った「一回でも休むと、また、不登校に戻ってしまうと思い、それが怖くて体調が悪くても必死で登校した」。

彼は、私が居る校長室にしばしば遊びに来た「校長、ここで

弁当食べていいですか」「いいよ」。そんな付き合いであった。

彼は夜間部の生徒であったが昼間の授業も履修していた(戸田飛翔陽高校の特色で他の部の授業も受けることができた。なので、定時制ではあるが3年間で卒業できた)。東日本大震災の日(2011.3.11)が卒業式であった。

一年間浪人したが早稲田大学に合格した。私はめでたしめでたしと思っていたが、彼は言った「不登校の時よりも、大学生活の方がよっぽど苦しかった。なぜなら、友だちと話しが全くなみ合わず、友だちができなく孤立した」。

その後、東京大学大学院で定時制の研究を続け、埼玉県立高校の教員採用試験にも合格し、自ら夜間定時制高校の教師を志願した。そして、教育行政を内側から変えていくことを決意した藤井君は、難関で知られる国家公務員総合職試験を受けて合格した。

文科省に入省後も、新聞、雑誌、講演会等で積極的に情報発信している。

寄稿者 管野吉雄さんの 紹介

寄稿頂きました管野吉雄さんは、常葉町出身ですが田村高校卒業という縁で現在は三春舞鶴会が発行している三春舞鶴通信編集長をなされております。27歳で埼玉県内の高校の数学教師になり埼玉県立秩父高校を初任校に、埼玉県内の高校を転勤され、県立浦和西高校長で定年退職されました。

退職後は、自治会長や保護司などのなり手の少ない活動にご尽力され、その中で面白味を発見しつつ、社会への恩返しとの思いを述べられております。

「教え子の不登校児が文部官僚になった」は、『三春わが街』を三春舞鶴会へ送付している中で、管野さんから令和5年7月11日発売の『週刊女性』に「元不登校児、官僚になる」との情報を頂き、不登校児の社会問題の中、何かに役立てばと感じて寄稿を依頼いたしました。

道ゆく人

監事 圓谷 彰孝

「内外（うちそと）のながき旅より かへりきて（帰りきて） 子にもかたらむ（語らん） 目にみし事を」（加藤木重教）かとうぎ・しげのり「旅する人々」と題する企画展を見た。

三春町歴史民俗資料館の主催である。

加藤木重教は、電信技士として、電気事業の発展に寄与した人物だ。

彼は、人生を旅になぞらえ、国内外を歩いた。

一八五七年、磐城平生まれの三春育ちである。

徒歩、馬、船で東京、三春藩の貢進生（奨学生）として慶應義塾の門をたたいた。



「矢立て」腰にさして携行した筆記用具。墨つぼと筆入れの一式。

洋学を学んだのだ。

東京へは七十里（二十七キロメートル）、六日間の道のりである。

十五歳で志を立てた彼の荷物物は、木綿の羽織袴などの衣類、母が与えた小遣い、藩校の書籍であった。

三春から奥州街道を通り、郡山へ。

白河を経て氏家、阿久津まで行き、川船に乗って（鬼怒川）久保田に向かう。利根川と江戸川の分岐点である境までは馬を用い、日没を待って乗船し、江戸川を下る。

午後二時過ぎには、汐留にたどり着くというルートだ。

東京に向かう大人たちと行動をとりにした。慶應義塾での勉学は一年であきらめざるを得な

「道中弁当行李」お結びが2個、収まるサイズ。旅行には欠かせないアイテムだ。



かった。廃藩置県の影響で、奨学金が途絶えたのだ。

そのため、官費で運営され、学費が免除された電信修技校に入学。

翌年、工部大学校で電気学を習得し、電信技術官として東北地方を一巡した。

その後、エジソンが発明した電話機の開発に興味を抱き、太平洋航路でサンフランシスコに渡る。



「諸街道延絵図」

奥州街道を行く大名行列。道中の様子が克明に描かれている。

鉄道でアメリカ大陸を横断し、ニューヨークをめざした。

留学の夢を果たしたのだ。

一九一〇年には、日本—アメリカ—ヨーロッパ一周の旅に出ている。「わたしの旅は、磐城平から三春への道のりから始まった」

父である直親（なおちか）が、三春藩の柔術師範として招かれたのだ。

重教、四歳の出来事である。



「三春わが街」デジタル版はこちらから！



三春町のホームページの地区まちづくり協会のページにつながるQRコードです。

広告募集 〈募集期間 令和6年1月4日(木)～31日(水)〉

- 料金 ①下段（横 179mm・縦 47mm）5,000円/回、年 20,000円
- ②下段（横 88mm・縦 47mm）2,500円/回、年 10,000円

●申込先・問い合わせ 三春まちづくり協会事務局 電話・FAX 0247-62-3988
(火曜・水曜・木曜 9:00～15:00) Mail: miharu.k@pony.ocn.ne.jp

- 配布個数 約 2100 戸
- 発行 6 月末
9 月末
12 月末
3 月末

